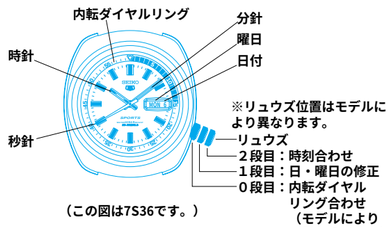
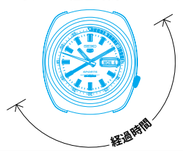
■各部の名称とはたらき



（この図は7S36です。）

内転ダイヤルリングの使いかた
右図は開始（▽位置）後30分経過したことを示しています。

●経過時間の測定
内転ダイヤルリングを動かし▽マークを分針に合わせてください。
ある時間が経過した後に、分針の指す内転ダイヤルリング上の目盛りを読めば、その時までの経過時間がわかります。



■ご使用方法

〔自動巻き式機械時計の取扱いかた〕
（１）7S26、7S36
①この時計は自動巻き式機械時計です。

②ゼンマイは時計を腕につけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。

③止まっている時計をお使いになるときは、時計を振って時計を始動させてください。秒針が動きだしたら日付と時刻を合わせて腕におつけください。

④この時計は、ゼンマイが充分に巻き上げられた状態で約40時間働き続けます。（ゼンマイの巻き上げが不足すると進み遅れの原因になりますので、１日８時間以上携帯することをおすすめします。）

（２）4206
①この時計は自動巻き式機械時計（手巻き付き）です。
②ゼンマイは時計をつけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。また、リュウズをまわしてゼンマイを巻くこともできます。
③止まっている時計をお使いになるときは、リュウズをまわすか、時計を振って時計を始動させてください。秒針が動きだしたら、日付・曜日と時刻を合わせて、腕におつけください。
④ゼンマイを巻く際にはリュウズを右方向（12時方向）にゆっくりまわしてください。なお、リュウズは左方向（6時方向）では空まわりするようになっています。ゼンマイは巻き上げが完了しても空まわりしますので、ゼンマイを巻き切る心配はありません。
⑤この時計は、ゼンマイが十分に巻き上げられた状態で約40時間動き続けます。（ゼンマイの巻上げが不足すると進み遅れの原因になりますので、1日8時間以上携帯することをおすすめします。）なお、時計を腕につけないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にゼンマイを十分に巻いてご使用ください。

〔時刻の合わせかた〕

①

リュウズを二段引き出します。リュウズが引き出せない（ネジロック式リュウズ）モデルはリュウズを左にまわしてネジをゆるめリュウズを二段引き出します。
※秒針は止まりません。

②

リュウズをまわして現在の時刻に合わせてください。
※午前・午後を間違えないように合わせてください。
（日付は24時間に１度変わるように設定されています。）
※機械時計は、クオーツ時計と機構が異なりますので、時刻を合わせる際には、針をいったん正しい時刻よりやや遅らせておき、それから進めて合わせるようにしてください。

③

リュウズを押し込んでください。（ネジロック式リュウズ）モデルはリュウズを押しつけながら右に止まるところまでネジ込んでください。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL117が便利です。

〔日付・曜日の合わせかた〕

⚠ 注意
・午後９時～午前４時までは日付・曜日を合わせないでください。
この時間帯に日付・曜日を合わせますと、翌日になっても日付・曜日が変わらないことがありますので、この時間外に針を動かしてから日付・曜日を合わせてください。

①

リュウズを一段引き出します。リュウズが引き出せない（ネジロック式リュウズ）モデルはリュウズを左にまわしてネジをゆるめリュウズを一段引き出します。
※この時計のリュウズは二段引けます。

②

リュウズをまわして前の日の日付・曜日にセットします。
※英文字・和文字お好みの方に合わせてください。

4206

7S26・7S36

③

リュウズを２段目まで引き出して、今日の日付・曜日になるまで針をまわします。
今日の日付に変わると「午前０時」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。

④

リュウズを押し込んでください。（ネジロック式リュウズ）モデルはリュウズを押しつけながら右に止まるところまでネジ込んでください。

●月末の日付修正について

２月（１カ月が28日、うるう年は29日）と小の月（１カ月が30日）では日付の修正が必要になります。

例：小の月の翌月１日の朝、日付を修正する場合
①「１日」ではなく「31日」が表示されています。
リュウズを一段目に引き出してください。

②リュウズを右回転させ（4206の場合は右回転）日付を「１日」に合わせ、リュウズを押し込んでください。

⚠ 注意
・時計の針が午後９時から午前１時までの間は、日修正は避けてください。
故障の原因になります。